

製品名: CNTNAP2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86520**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.09mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:148 kDa; Observed MW:150 kDa

抗原情報

遺伝子名	CNTNAP2
別名	CDFE; NRXN4; AUTS15; CASPR2; PTHSL1
遺伝子 ID	26047
SwissProt ID	Q9UHC6
免疫原	ヒト CNTNAP2 の合成ペプチド

背景

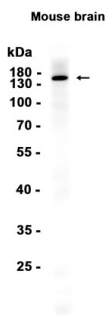
この遺伝子は、脊椎動物の神経系において細胞接着分子および受容体として機能するニューレキシンファミリーのメンバーをコード

しています。このタンパク質は、他のニューレキシンタンパク質と同様に、上皮成長因子リピートとラミニン G ドメインを含んでいます。さらに、F5/8 タイプ C ドメイン、ディスコイジン/ニューロピリン様およびフィブリノーゲン様ドメイン、トロンボスポンジン N 末端様ドメイン、そして推定 PDZ 結合部位も含んでいます。このタンパク質は、髄鞘形成軸索の傍核に局在し、神経系の発達においてニューロンとグリアの相互作用を媒介するとともに、分化中の軸索内のカリウムチャンネルの局在にも関与しています。この遺伝子は 7 番染色体の約 1.5% を占め、ヒトゲノム中で最も大きな遺伝子の 1 つです。この遺伝子は、発話および言語発達に関連する転写因子であるフォークヘッドボックスタンパク質 P2 に直接結合し、制御されています。この遺伝子は、ジル・ド・ラ・トゥレット症候群、統合失調症、てんかん、自閉症、ADHD、知的障害など、複数の神経発達障害に関与していることが示唆されています。[RefSeq 提供、2017 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



CNTNAP2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。